

事務事業評価表

1. 基本事項

作成日 令和06年06月21日(金)

事務事業		岡部駅橋上駅舎化事業		担当課	都市計画課	担当係	市街地整備係	管理番号	44322	
総合計画	大項目	5	快適で利便性の高いまち		事業区分	<input checked="" type="checkbox"/> 自治事務 <input type="checkbox"/> 法定受託事務				
	中項目	2	交通アクセスの便利なまちづくり		根拠法令 個別計画等					
	小項目	2	公共交通の維持確保と交通安全の推進							
	主要プロジェクト									
事業概要		岡部駅を自由通路を兼ね備えた橋上駅舎へバリアフリー化を含めた一体整備をすることで、駅南側からのアクセス改善を推進するとともに、駅南北の回遊性を高め、駅並びに周辺利用者の利便性向上を図るものである。								
目的 ※何のために		駅南側からのアクセスを改善し、駅南北の回遊性を高める								
対象 ※誰・何を対象に		駅並びに周辺利用者								
手段 ※どのように		岡部駅を自由通路を兼ね備えた橋上駅舎へバリアフリー化を含めた一体整備を行う								
成果 ※何を求めるか		駅並びに周辺利用者の利便性向上を図る								
執行体制		<input checked="" type="checkbox"/> 職員 <input checked="" type="checkbox"/> 一部委託 <input type="checkbox"/> 全部委託 <input type="checkbox"/> 指定管理 <input type="checkbox"/> 市民ボランティア <input type="checkbox"/> NPO等 <input type="checkbox"/> その他( )								
事務事業を構成する 予算事業		区分	款	項	目	細事業名		前年度決算額(円)		
		一般会計	8	土木費	4	都市計画費	1	都市計画総務費	岡部駅橋上駅舎化事業	2,072,160
本事業の 主な業務		・ 岡部駅橋上駅舎化整備					・			
		・ 岡部駅北口駅前広場整備					・			
		・					・			
		・					・			
		・					・			
		・					・			

2. 事業費(投入コスト)

単位: 円

区分		令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度
年度別計画		・ 基本構想策定 ・ JRとの協議	・ 基本構想策定 ・ JRとの協議	・ JRとの協議			
事業費	予算(現額)	15,498,000	2,339,000	4,480,000	4,480,000		
	決算額	13,124,502	2,072,160	0	0		
	財源内訳						
	国支出金	0	0	0	0		
	県支出金	0	0	0	0		
	地方債	0	0	0	0		
	他特定財源	0	0	0	0		
	一般財源	13,124,502	2,072,160	4,480,000	4,480,000		
人件費	従事職員数(人)	0.73	0.54	0.56	0.56		
	人件費相当試算※	5,744,777.00	4,325,490.00	4,682,104.00	4,682,104.00		
総事業費試算		18,869,279	6,397,650	9,162,104	9,162,104		

※ 人件費相当額試算は、従事職員数に平均人件費を用いて試算したものです。

3. 評価指標

区分	指標名		単位	令和 4年度	令和 5年度	令和 6年度	令和 7年度	令和 8年度	令和 9年度
	目標値	実績値							
	目標値の算定根拠/実績値の出所								
実績値の算出式									
活動指標 1	市民との意見交換実施回数	目標値	回	0.00	0.00	1.00	1.00	1.00	1.00
		実績値		0.00	0.00				
	目標値の算定根拠/実績値の出所		意見交換会の実施回数／実績による						
	実績値の算出式								
活動指標 2	関係機関との協議実施回数	目標値	回	5.00	5.00	5.00	5.00	5.00	5.00
		実績値		11.00	3.00				
	目標値の算定根拠/実績値の出所		関係機関はJR、県、国等とする／実績による						
	実績値の算出式								
成果指標 1	JRとの基本協定の締結	目標値	式						
		実績値		0.00	0.00				
	目標値の算定根拠/実績値の出所		事業の性質上、目標の設定は困難である／実績による						
	実績値の算出式								
		目標値							
		実績値							
	目標値の算定根拠/実績値の出所								
	実績値の算出式								
		目標値							
		実績値							
	目標値の算定根拠/実績値の出所								
	実績値の算出式								
		目標値							
		実績値							
	目標値の算定根拠/実績値の出所								
	実績値の算出式								

4. 観点別評価

観点別評価は、指標達成の有無の他、その達成率も勘案して総合的に評価します。  
目標値の設定がないものについても、進捗状況等を踏まえA～Cの三段階にて評価します。  
事業達成度評価は、意図した活動により事業目的に合う成果がでているかを評価します。  
(評価基準) (A:達成している B:おおむね達成している C:達成していない)

(1) 事業達成度評価

区分	評価の観点	評価	評価理由・指標数値の推移
活動	・活動実績は、見込みに沿い、かつ投入資源に見合っているか。	B	今年度はJRとの協議を3回実施したほか、上里町との協議を2回実施し、橋上駅舎化の実現へ向けた幅広い知見を得ることができた。
成果	・意図した成果が上がっているか。 ・指標未達成の場合は、その原因を分析できているか。	B	今年度は本事業に係る基本構想を策定することができた。今後は、JRとの協議を通じ、基本構想の内容を深度化していくことで、基本協定締結を目指していく。
			評価者 課長補佐兼市街地整備係長 荒谷 匠

(2) 事業効率性評価

事業効率性評価は、執行体制や手段など効率的に事務事業を執行しているかを評価します。  
(評価基準) (A:効率的である B:高める余地あり C:効率的でない)

区分	評価の観点	評価	評価理由
効率性	・ICTの活用や業務改善が充分か。 ※検証必須 ・コスト面など効率的に執行できているか。 ・民間委託や他事業との統合・連携が可能か。	B	駅舎橋上化の実現にあたっては、住民との合意形成を図ったうえで、JRと基本協定を締結する必要がある。住民やJRとの協議を実施していくうえでは、駅利用者の利便性向上を図るため、粘り強く協議を重ねていくことが重要である。
			評価者 課長補佐兼市街地整備係長 荒谷 匠

5. 前年度改善改革プラン達成状況

令和4年度の評価を受けて 設定した改善・改革案	基本協定の締結に向け継続的にJRと協議を進めるとともに、国庫補助金の活用を検討し、基本構想の策定を目指す。
達成状況及び その効果	今年度は本事業に係る基本構想を策定することができた。今後は、JRとの協議を通じ、基本構想の内容を深度化していくことで、基本協定締結を目指していく。

6. 所属長評価（今後の方向性）

事務事業	岡部駅橋上駅舎化事業	担当課	都市計画課	担当係	市街地整備係	管理番号	44322
<div><div><div><input type="checkbox"/> ①拡充, 重点化(コスト投入)</div><div><input checked="" type="checkbox"/> ②現状のまま継続</div><div><input type="checkbox"/> ③見直して継続</div><div><input type="checkbox"/> ④目的達成による終了</div><div><input type="checkbox"/> ⑤廃止を検討</div></div><div><div><input type="checkbox"/> 委託化等の検討</div><div><input type="checkbox"/> 成果向上のための改善</div><div><input type="checkbox"/> 効率化のための改善</div><div><input type="checkbox"/> 事業規模の縮小</div><div><input type="checkbox"/> 他の事務事業と統合</div></div></div>		<div>評価の内容説明</div> <p>駅舎橋上化の実現へあたっては、先進事例から長い年月を要することが想定される。駅舎整備にあたっては、利用者の利便性向上を追求するとともに、経済性を重視し、補助金や起債の活用を検討することが重要であることから、今後も国、県を始めとした関係機関との協議を継続していく。</p>					
上記を実施するための具体的な取組内容は？		評価者	都市整備部次長兼都市計画課長 武田 直樹				

7. 改善改革プラン・今後の課題

令和6年度に実施する 改善・改革案 (事業目的・各指標の達成に必要な改善、業務の効率化を図るための改善)	JRとの基本協定締結へ向け、JRとの協議を継続するとともに、外部への情報発信へ向けた研究を進めていく。
令和7年度以降に取り組む 改善・改革案・今後の課題 (事業目的・各指標の達成に必要な改善、業務の効率化を図るための改善)	JRとの基本協定締結へ向け、JRとの協議を継続するとともに、外部への情報発信へ向けた研究を進めていく。

8. 評価指標グラフ

